

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域でけん銃や小銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

2008年以降、積極的なUPP（州軍警察平和構築部隊）の設置などにより改善しつつあったリオの治安は、2013年頃より伯経済の低迷などを背景として、再び悪化の一途を辿っており、2016年に入ってから、リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり、オリンピック・パラリンピックが終了した昨年後半から急激に体感治安が悪化している。

- (2) この様な中、犯罪捜査を担当する州文民警察が本年1月から4月までの間、未払賃金等の支払いと職場環境の改善を求めるストライキを実施したことにより、殺人、強盗致傷といった凶悪犯罪以外の被害届が受理されないなどの問題が生じた（本年4月7日にストライキ解除）。

また、依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き綱）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸、幹線道路沿いで発生しており、治安当局もこれらの取締りを強化しているが、健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど、警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

- (3) 現在、リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に敵対する麻薬密売組織間における抗争が激化するとともに、UPPをはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦が頻発しており、流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

さらに、幹線道路等においては、積荷を積載した車両を襲撃し、車両ごと強取する手口などによる積荷強盗が多発しており、喫緊の課題となっている。

- (4) これら課題に対処するため、連邦政府による国家治安計画に基づき、本年7月28日から2018年末までの間を目処として、総計10,240名から成る国軍兵士や国家治安軍、連邦道路警察官等がリオ州内へ投入され、薬物銃器・積荷強盗対策に従事しており、一定の成果は見られるものの、その根絶には至らない状況にある。

- (5) リオ州政府としても、連邦政府からの援助を得た上、治安を担当する公安局が中心となり、治安回復に取り組んではいるものの、州の財政難による新規採用警察官の見送りや装備・資器材の故障、殉職・離職警察官の増加、組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方、凶悪犯罪は増加しており、犯罪の増加に歯止めを掛けられない状況にある。

- (6) また、長引く不況を背景として、リオ市内におけるホームレスの数が数年前と比較して激増しており、こうした状況が体感治安の悪化に拍車を掛けて

いる一つの要因とも言える。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) リオ州公安局統計院 (ISP) によれば、2017年上半期のリオ州内における殺人事件発生件数は、2,723件で、前年同期と比べて251件増加(+10.2%)している。

また、強盗事件発生件数は、11万747件で、前年同期と比べて1万3,683件増加(+14.1%)しており、特に、車両・携帯電話強盗の増加が著しい。

(2) 第2四半期中、リオ市ラパ地区において、邦人女性が携帯電話を強取されるなど、引き続き路上強盗に対する注意が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況 2017年7月 (前年同月比増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	370 (+2)	108 (+9)
強姦	371 (-23)	124 (+16)
商業施設強盗	636 (+5)	301 (+45)
住居侵入強盗	105 (+5)	51 (+14)
車両強盗	4,953 (+1,848)	2,437 (+998)
路上強盗	8,583 (+749)	4,512 (+740)
交通機関内強盗	1,556 (+412)	882 (+301)
携帯電話強盗	2,472 (+721)	1,388 (+555)
強盗総数	21,856 (+5,023)	11,821 (+3,575)
窃盗総数	12,470 (-811)	7,081 (-478)

4. リオ市南部犯罪発生状況 2017年7月 (前年同月比増減数)

【フラメンゴ・ポタフォゴ地区】

殺人	1 (±0)
商業施設強盗	25 (+16)
住居侵入強盗	5 (+4)
車両強盗	41 (+23)
路上強盗	154 (+67)
交通機関内強盗	30 (+5)
携帯電話強盗	49 (+23)
強盗総数	363 (+153)
窃盗総数	493 (+49)

【コパカバーナ地区】

殺人	0 (-1)
----	--------

商業施設強盗	8 (+4)
住居侵入強盗	4 (+3)
車両強盗	3 (+3)
路上強盗	59 (+13)
交通機関内強盗	7 (-1)
携帯電話強盗	18 (+10)
強盗総数	122 (+22)
窃盗総数	480 (+4)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	2 (+2)
商業施設強盗	13 (+10)
住居侵入強盗	5 (+4)
車両強盗	6 (+2)
路上強盗	77 (+13)
交通機関内強盗	12 (+6)
携帯電話強盗	28 (+17)
強盗総数	164 (+41)
窃盗総数	352 (-57)

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

- (1) リオ市南部『チジュッカ国立公園 (Parque Nacional da Tijuca)』内において強盗被害が多発

リオ市南部の『チジュッカ国立公園』内において、強盗被害が多発しており、『ラージェ公園 (Parque Lage)』から『コルコバードの丘』へと通じる遊歩道において、旅行者等が襲われていると報じられた。

- (2) コパカバーナ地区で集団路上強盗事件が発生

7月12日（水）午後9時頃、コパカバーナ海岸沿いの遊歩道において、少なくとも7名の少年たち（10代前半くらい）が、キオスク前で談笑していた女性等を襲い、バッグ等を強取したと報じられた。少年たちは、けん銃様の武器で付近の住民を脅したり、女性を羽交い締めにして地面に押し倒すなど、容赦のない手段で女性のバッグ等を奪い取り、逃走した。

- (3) ガレオン空港へ向かう高速道路『リーニャ・ベルメーリャ (Linha Vermelha)』で銃撃戦が発生

7月16日（日）午後7時30分頃、リオ市北部マレ地区の市内とガレオン空港を結ぶ高速道路上『リーニャ・ベルメーリャ』において、ノバ・オランダ (Favela Nova Holanda) を根城とする犯罪組織と軍警察との間で、銃撃戦が発生したと報じられた。銃撃戦は深夜まで続き、付近道路が断続的に封鎖されるとともに、多数の運転手らが銃撃を避けるために車両を放置して付

近の軍警察部隊へ逃げ込むなど、付近は大混乱となった模様である。

(4) レブロン地区で警察官の殉職事案が発生

7月23日(日)早朝、リオ市南部レブロン地区の『ビジガル (Vidigal)』ファベラにおいて、UPP(州軍警察平和構築部隊)の警察官がビジガルのメイン道路をパトロールしていたところ、いきなり発砲を受けて負傷し、近くの病院へ搬送されたものの、死亡した。今年に入り、警察官の殉職者数は91名で、54時間に1名の警察官が亡くなっていると報じられた。

(5) コパカバーナ地区で建物に対する集団強盗(逮捕・監禁)事件が発生

8月27日(日)午前6時頃、銃器武装した被疑者(少年)らが、リオ市コパカバーナ地区フィゲイレド・マガリャエニス通り(Rua Figueiredo Magalhães)沿いの建物に侵入し、門番に暴行を加えるなどして拘束した後、約3時間に亘り同建物を占拠、建物の住人(少なくとも6世帯)を次々と脅して宝石や電化製品、携帯電話、身分証明書等を強取、住人らを建物駐車場の小部屋に監禁した上、住人の車両2台を強奪し、逃走した。

(6) リオ市フラメンゴ地区で銃撃戦が発生

9月3日(日)午後4時頃、銃器武装した被疑者2名がバイクで移動しながら、リオ市フラメンゴ地区セナドール・ヴェルゲイロ通り(Rua Senador Vergueiro)沿いのバーにて飲食中の客を次々と脅し、強盗を敢行。付近警戒中のリオ州軍警察官が当該事件を認知し、被疑者らを追跡、クルース・リマ通り(Rua Cruz Lima)とプライア・ド・フラメンゴ通り(Praia do Flamengo)の交差点付近において、軍警察官と被疑者らとの間で激しい銃撃戦が発生。この際、軍警察官1名が足に被弾して負傷。その後、被疑者2名は、プライア・ド・フラメンゴ所在の居酒屋『ベルモンテ (Boteco Belmonte)』周辺において、ホンダ・シティーを強奪、運転手1名を人質とし、セントロ地区へ逃走。軍警察が被疑者らを追跡し、セントロ地区において被疑者1名を射殺、もう1名の身柄を確保するとともに、自動式拳銃1丁、弾薬30発を押収。この際、シティーの運転手が肩に被弾して負傷した。

(7) リオ市イパネマ地区における銃撃戦の発生

9月8日(金)午後(時刻不詳)、銃器武装した被疑者4名が、リオ市イパネマ地区ヴィスコンデ・デ・ピラジャー通り(Rua Visconde de Pirajá)所在の『ポイント・フリオ(家電量販店)』を襲撃し、逃走途次、現場に駆けつけたリオ州軍警察官との間で銃撃戦が発生、被疑者らはバイクにて逃走した。

(8) リオ市南部『レボウサス・トンネル』における集団強盗事件の発生

9月16日(土)未明、リオ市南部『レボウサス・トンネル (Túnel Rebouças)』において、同所を通行中の車両2台(少なくとも被害者3名)が、6名の武装集団に襲われ、所持品を強取された。被疑者らは、小銃や回転式けん銃、自動式けん銃等で武装しており、同トンネルの出入口付近の茂みから突如現れ、本件を敢行した。

(9) リオ市南部『ホシーニャ(国内最大のスラム街)』における銃撃戦の発生

9月17日（日）未明、リオ市南部『ホシーニャ・スラム街（Rocinha）』において、銃撃戦が発生。50名以上の武装集団が同スラム街に押し入り、同スラム街を根城としている麻薬密売組織を襲撃した模様。同銃撃戦に伴い、1名が死亡、3名が負傷したと報じられた。

(10) リオ市ボタフォゴ地区における商業施設（商店）対象の強盗事件の発生

9月19日（火）午後2時30分頃、被疑者2名が、リオ市ボタフォゴ地区パサージェン通り（Rua da Passagem）所在の商店を襲い、強盗を敢行。被疑者らは、現場に警察官が到着するや否や、付近のタクシー運転手を拘束し、タクシーにて逃走。ショッピングセンター『リオスウ（Riosul）』前にて同タクシー運転手を解放し、同センター駐車場内へ逃走したものの、1名が射殺、もう1名が逮捕され、現場にて自動式けん銃1丁、被害品数点が押収された模様。

(11) リオ市ラランジェイラス地区における金融機関対象の強盗事件の発生

9月20日（水）午後3時20分頃、リオ市ラランジェイラス地区ラランジェイラス通り（Rua das Laranjeiras）所在の『サンタンドール銀行』において強盗事件が発生、銃撃戦となった模様。

(12) リオ市南部『ホシーニャ』における銃撃戦の発生

9月22日（金）午前9時30分頃、リオ市南部『ホシーニャ・スラム街（Rocinha）』周辺において、同スラム街を包囲しているリオ州軍警察機動隊等と麻薬密売組織との間で銃撃戦が断続的に発生し、この銃撃戦により、同スラム街を根城としている麻薬密売組織の構成員が周囲に逃走した模様。リオ市は、同スラム街周辺の『ラゴアバーハ自動車専用道路（Autoestrada Lagoa-Barra）』や『ズズ・エンジェル・トンネル（Túnel Zuzu Angel）』の通行止めを報じており、ガベア（Gávea）においてバス1台が放火されるなど、同スラム街周辺において混乱が生じた。

6. 邦人被害（邦人女性の路上強盗被害）

9月8日（金）午前6時頃、邦人女性1名が、リオ市ラパ地区テオトニオ・レガーダス通りを歩行中、黒人男性1名が同女に駆け寄り、けん銃を突きつけて同女を脅し、携帯電話1台を強取した。

7. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

8. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。

2017年7月中、リオ州内で短時間誘拐9件、恐喝123件が発生してお

り、いずれも高い水準で推移している。